

(参考様式5)

事業活用活性化計画目標評価報告書

計画主体名	計画主体コード	計画番号	計画期間	実施期間
宮崎県・高千穂町	450006	36 57	平成20年度～ 平成23年度	平成20年度～ 平成23年度
活性化計画の区域				
押方西地区(宮崎県西臼杵郡高千穂町)				

1 事業活用活性化計画目標の達成状況

事業活用活性化計画目標	目標値 A	実績値 B	達成率(%) B / A	備考
定住等の促進に資する農業用排水施設等の機能確保	39.9ha	39.9ha	100	

(コメント)

目標である「定住等の促進に資する農業用排水施設等の機能の確保」は、計画していた農業用排水路、農道の整備により、39.9haの目標を達成することができた。

2 目標の達成のために実施した各事業の内容と効果

事業メニュー名	事業内容及び事業量		事業実施主体
防災安全施設 小規模農林地等保 全整備	用水路工 L=1,294.7m 農道 L=1,929.8m 防火水槽 2基		高千穂町
管理主体	事業着工年度	事業竣工年度	供用開始日
徳別当土地改良区 上寺土地改良区	平成20年度	平成23年度	平成24年3月27日
事業の効果			
当地区は、営農に対する地形条件が非常に悪く、生産活動に不可欠な用水路は老朽化による漏水で慢性的な水不足をもたらしている。また、急峻な未舗装農道が多く、降雨時は耕作機械等の通行ができないため、碎石を敷くなどして通行している箇所もあり、維持管理に多大な労力を要していた。 今回、これらの施設を整備することにより、施設の維持管理労力が大幅に軽減され農道整備では耕作機械の安全な通行が確保されたことで、営農条件が大きく改善され、農地の保全が図られた。			

3 総合評価

(コメント)

当地区の農業は、水稻をベースに畜産、たばこ、野菜等の園芸作物を組み合わせた複合経営を行ってきた。水稻については、高品質・良食味米の生産を目指し、肉用牛の飼料としての稲わら等、副産物の活用も含めて、複合経営の中で欠くことができない作物である。しかし、農業従事者の高齢化、若者の流出に加え、老朽化した用水路や未整備の農道の維持管理費の増大は、生産意欲を低下させる一因ともなっていた。

今回、事業により営農の基盤となっている用水路及び農道を整備したことで、水不足の解消・低コストを実現し、生産性の向上・農業収入が安定することで生産意欲が向上し、後継者育成や農地の保全が図られ、地域の活性化及び定住に期待できるものと考ええる。

第三者の意見

(コメント)

用水路の老朽化による慢性的な水不足、農道の未整備による多大な維持管理負担など厳しい営農条件にあったが、用水路及び農道の整備によって水不足は解消し、農道の維持管理も大幅に軽減され、目標値も達成されていると評価できる。今後は、営農意欲の向上のもとに新たな複合経営の展開を目指し、農業所得の向上、地域の活性化が図られることが期待される。

(九州大学大学院農学研究院 教授 福田 晋)

【 記入要領 】

- (1) 計画主体コード、計画番号は年度別事業実施計画に記入した番号とすること。
- (2) 「1 事業活用活性化計画目標の達成状況」のコメントには、目標が未達成となった場合は、その理由を記入すること。また、達成状況が低調である場合は実施要綱第8の2の(1)及び(2)に基づき改善計画を作成し、農林水産大臣に提出すること。
- (3) 「2 目標の達成のために実施した各事業の内容と効果」は事業メニュー毎に作成すること。また、「事業の効果」には事業の実施により発現した効果(農山漁村の活性化に関連する効果)を幅広く記入すること。